

岩手教区報

第393号
立教188年9月1日
天理教岩手教務支庁
盛岡市馬場町3-40
TEL 019-622-7962
FAX 019-623-9597



教会長として初めての年祭

主事・二戸支部長 羽澤道広



教祖140年祭

今期より主事として勤めることになりました。右も左も分からぬ状況ではありますが、何卒よろしくお願ひいたします。

教祖百四十年祭の三年千日も残り半年を切りました。教会長として初めての年祭ということで、今までとは立場も違い、どのように歩んでいったら良いのか、若干の不安を感じて歩み出しました。

前回の年祭の時には、5代会長夫人である母の突然の出直しにより、あつという間に過ぎ去った印象が強かったのですが、今回は「落ち着いて年祭まで通れれば」と思っておりまして。ところが、いざ年祭活動が始まると、次々と信者さんに身上を見せられ、あまりにも続いたものですから、当初は不眠気味になっておりまして。そのような中でも気持ちを立て直し、勇んでおたすけへと励ませていただきましたが、筆頭役員の相次ぐ出直しや、母の出直し後に婦人会を引っ張ってくれた叔母も最近出直され、今回もなかなか厳しいお仕込みと感じています。

一方で、最近、教会長に就任して初めてのおさづけ拝戴者を御守護頂き、また、筆頭役員もご子息が引き継ぐ形で勤めて下さることなど、教会に繋がる方々の

若返りを感じながら、先を楽しみに勇ませていただいている今日この頃です。

先日、大教会の縦の伝道講習会において、講師より「この三年間だけ頑張らしよう」と、イベントのようにしてしまったら、それは本当の成人ではない」とのお話をいただきました。私はこの三年間を通してただく中で、気づいたことがあります。それは「三年千日は、成人に向けて教祖からいつも背中を強く押してもらえる気がする」ということです。

私共の教会は、大教会の声に合わせて目標を設定し、活動を進めてまいりましたが、恥ずかしながらその設定は、現実的なものに毛が生えた程度でした。その中におさづけの取り次ぎ回数も含まれていましたが、身上者が相次いだこともあり、その回数は早々にクリアすることとなりました。身上者を相次いでお与え頂きおたすけに努める中に、教祖から「もつと頑張れ」と背中を押されているような気持ちを感じるようになりました。

半年後に年祭を迎えて「自分なりに頑張れたな、これで終わり」ではなく、この勢いを次の年祭に続けていけるよう頑張っていきたいと思ひます。



「元一日」

「元一日」という言葉は奥深いいろいろな意味を内包していますが、ここでは我が家の信仰の元一日に絞って記させていただきます。

私は信仰5代目になりますが、初代は明治31年の入信と、大教会の古い記録にあります。その後、我が家は火災や水害の大節を見せられ、そのために当時の記録類は消滅し、今に到ってなお、入信の元一日が判然としておりません。

信仰を続けていくに際して、入信の元一日が解らないことほど寂しいことはなく、私は教会長就任後しばらく、この解明に努めていました。大教会の古い資料を漁り、村の長老さん方を訪ねてみました。初代は息子の頭の身上を救けて頂いたらしい、という話は聞かれましたが、病名までは判りませんでした。90年前の

事情を知っている方は何処にも居りませんでした。

元一日の探索を諦めかけていた時、「見るもんねん聞くもんねん、世話取りするは尚のこと」という言葉を知りました。神様よりお与え頂くおたすけ先は、みな私のいんねんの姿なのだと思ひに治まり、いんねん自覚へ近づくために、おさづけの取り次ぎに心を向けました。いんねんの自覚ができないうちは、さんげもたんのうもできないので、陽気ぐらしへの道筋は閉ざされると思えたのです。

その後、お見せ頂いた病名は、アルコール依存症、心身症、うつ病、脳梗塞、脳腫瘍、リウマチ、神経痛…と頭に関係する身上が多く、入信のきっかけになった身上はやはり頭に関係していたのだと確信するようになりました。そしてある時ふと、その病名が「脳膜炎」だったのではと閃くものがありました。当初より薄々自覚してはいましたが、頭に関係するということ、強い高慢のいんねん」を改めて自身に言い聞かせ、低い心を意識して歩み直すことにしました。

初代は医者も薬もない時代、八戸に何でも治してくれる神様がいらると聞き、藁にもすがる思いで大教会の初代様を訪ねました。いまだ鉄道は開通してなく、40数km歩いて県境を越えおたすけに運んで

頂いたお陰で、10歳の息子は奇跡的な靈救に浴しました。この子は二代講元となり、80歳まで長命しています。

国家の弾圧、世間の嘲笑、戦争、災害、貧困などの苦難の数十年を経て、何度も切れなかった信仰の炎をかううじて繋いだ中、初代の入信より77年後の昭和50年10月、教会名称のお許しを戴くことになりました。

毎朝夕、祖霊様方の伏せ込みと遺徳に厚く御礼申し上げていますが、それは単に命を繋いでくれたことへの感謝を超えて、人間の心・魂がたすかる唯一のこの道を、今に伝えてくれます。



行事予定

【9月分】

- 6日 学生担当委員会例会 (Zoom) (まなびば後)
- 7日 婦人会例会 (10時)
- 13日 青年会例会 (18時)
- 15日 わかぎの集い (10時)
- ” 道の学生ひのきしんDAY (10時)
- ” 女子青年例会 (10時)
- 28日 全教一斉にをいがけデー (30日)

道の教職員の集いは、さる8月11日(月・祝)、12日(火)の2日間、教務支庁を会場に「第46回夏の勉強会」を開催し、小中学生13人、スタッフ16人、合計29人が参加した。

初めて親元を離れて泊まる小学校低学年の子供の姿もある中、学習面については、持ち寄った宿題や課題にそれぞれが一生懸命取り組み、わからないところ、は高校生達が懇切丁寧に教え、中には夏休みの宿題をやり終える子もあった。また、学習の合間には、庁舎内の部屋の清掃や、食事の準備片付けなど、率先して



道の教職員の集い

「第46回夏の勉強会」報告

教区学生担当委員会は、9月6日午後2時から7日にかけて、教務支庁を会場に、学生の集い「まなびば」事前研修会を開催します。学生層の育成を「与えられた用事としてこなしていくのではなく、にをいがけ・おたすけととらえて行動していくことが、私たち育成者にとって最も大切な姿勢」との指針のもと、まなびばのプログラムについて、本部より講師を招いて研修を行います。一人でも多くの参加をお願いします。

学生担当委員会

「まなびば研修会」【9月6・7日】

ひのきしんに励んでいた。なお、今年は戦後80年の年にあたるところから、漫画『はだしのゲン』や紙芝居『いくさの少年期』を教材に、平和の大切さを学ぶ時間も設けた。

勉強会終了後、家族が迎えに来て帰る際、低学年の児童から「もう一泊したかった」との声もあり、次回開催に向けてのスタッフへの奮起と受け止めさせて頂いた。来年度も宜しく御願い致します。

「道の学生ひのきしんDAY」

【9月15日】

教区学生担当委員会・教区学生会は、9月15日(月・祝)10時から、教務支庁周辺及び盛岡市大通のごみ拾いひのきしんをさせて頂きます。昼食から少年会岩手教区団の「わかぎの集い」に合流します。多くの学生の参加をお願いします。

わかぎの集い

日時 9月15日(月・祝) 10時
会場 教務支庁
対象 小学6年生～中学3年生
内容 グループゲーム、おつとめ
総会の練習、他。

計報

加藤 淑子 さん〔95歳〕
盛岡支部・杜陵分教会
2代会長夫人
令和7年8月2日出直された。

全教一斉にをいがけデー及び 全教会布教推進月間

「一手一つに世界たすけの 歩みを進めよう」



「全教一斉にをいがけデー」(9月28日・29日・30日の3日間)は、教会長が先頭に立って、同じ地域に住むようばく・信者と共に心をそろえ、お道のにをいを広めるために活動する日です。また、年祭活動のなかで、昨年と本年の9月は「全教会布教推進月間」として更なる意識をもって布教にあたり、世界に教えを広める月です。

例年、「にをいがけ強調の月」として勤めている9月。全教が系統を越えてお互いに力を合わせ、一手一つの勢いをもつてつとめさせて頂きましょう。



立教 188 年リーフレット

少年会

「少年ひのきしん隊教区練成会 及び本部練成会」報告

少年会岩手教区団は、さる7月21日、教務支庁において、少年ひのきしん隊教区練成会を開催した。これは本部練成会を間近に控えて、おつとめ練習、期間中の過ごし方など、隊員として自覚を高め、親睦をはかったもので、18人が参加した。本部練成会は、さる7月29日から31日にかけて、隊員12人、カウンセラー5人が入隊し、育成会員5人がその世話取りにあたった。



出発前日の27日、九戸支部と二戸支部の隊員が教務支庁に宿泊翌28日早朝、教務支庁をマイクロバスで出発し、途中前沢サービス

エリア、一関インターチェンジで隊員と合流し、午後10時、初日の宿泊先である城山詰所に到着した。29日は朝のおつとめに参加し、奈良市内を散策した後、午後2時、宿舎となるおやさとかた東左第5棟に移動し入隊となった。



期間中隊員たちは、お茶接待ひのきしんに元気な声掛けで汗を流し、こどもおどろがえりの各行事にも参加した。また今年も昨年同様、少年会鳥取教区団との合同隊となり、終始行動を共にし、隊員同士の絆も一層深まった。感激と充実の期間を過ごした隊員らは、8月1日夜、岩手に帰着した。

カウンセラーをつとめられた方々をはじめ、ご支援頂いた関係各位に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。